



小林市立小林小学校

校長通信

令和6年3月15日

第48号

(文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3510

E-mail:1401eb@miyazaki-c.ed.jp

年年歳歳 花相似たり

歳歳年年 人同じからず

昨年度の創立記念の時に、子どもたちにも紹介した詩の一節。今年もまたこれを実感する季節を迎えました。

大人の一年間と子どもたちの一年間とは大きく違います。子どもたちは、大人が感じているより速いスピードで心が動き、身体が成長しています。それに比べて大人は年齢を重ねるごとにそのスピードが落ちるので「一年が速い。」と感じるそうです。時に「人生はいくらでもやり直しがきくよ。」と人を励ますことがあります。しかし、学校の生活と密接な関係にある子どもの一年間がどれだけ大切か。教職にあつて、いつも同じことを考えさせられるのもこの季節です。どのように新しい春を迎えるか。心配ではなく、希望を強く持ちたいものです。

思いは力となる

全国に衝撃を与えた元旦の能登半島地震。いち早く子どもたちによる募金活動を行った小林市は、姉妹都市である能登町を勇気づけました。

本校では、災害が起きてから新聞記事やお昼の放送を使って、その後の様子を伝え続けました。子どもたちにはもっと感じてほしい、学んでほしいと考えたからです。

その感じたことを表現してほしいとメッセージの作成を呼びかけました。初めは校内に掲示して、みんなのものにした」と考えていました。

私の手元に届いたのは五十編あまり。見るとその一つ一つに心が込められ、温かい思いが伝わるものでした。…何とか被災地の皆さんに届けることはできないか?…輸送や郵便は滞っているだろう。学校に送ったとしても、再開したばかりの最中に迷惑をかけるだけか…。

そこで、新聞への投稿を思い、今回のメッセージ。手元にいつき、石川県で広く読まれる「北國(ほっこく)新聞」に相談しました。反応は思ったより早く、その日のうちに取り上げていただくことが決まりました。

二月二十二日付「北國新聞」には、本校の取組の紹介記事、投稿欄には二つのメッセージも載せていただきました。(裏面)デジタル版には、最初に送ったメッセージのすべてが紹介されています。

小林市と石川県の間は直線距離で約八百キロ。お互いに観光で訪れたという人も多くはないでしょう。普段は遠く離れた二つのまちが、子どもたちの思いによって近づいたような気がしました。

報道の映像だけを目にしていても、まだ復興には長い時間が必要ですが、近頃夢や希望に向かう気持ちをついた距離が離れないように、被災地に思いを寄せ続けたいと思います。

「思いは力となる」と思っています。進級、卒業おめでとう。

春休み中も安全に 春休み中は大人も子どもも落ち着かない時期となります。交通事故や遊び中のけがなど、十分に気を付けたいものです。休み中に何かありましたら、学校にも連絡いただくと助かります。よろしくお願ひします。

「元気を出してください」「これから応援」

宮崎の児童 被災地激励



能登町と姉妹都市 小林市の50人

投稿したのは小林小学校
1〜6年生の約50人。児童
小林市では1月10〜18
は40字びりに思い
をつづり、中には2メキ
ヤクターのイラストもお
動が行われた。回校では地
震発生から1週間、現状を
に紹介してきた。吉井校長
は募金以外に何かできない
かと考え、児童にメッセー
ジ募集を呼び掛けた。
当初は能登町の学校へ郵
送することを考えたが、本
紙の地鳴り欄の存在を知
り、「新聞なら多くの被災
者の方に見てもらえる」と
投稿を淡めた。全校児童は
507人おり、今後も定期
的に投稿を続けていく予定
だという。

本紙「地鳴り」欄に投稿

能登半島地震で甚大な被害を受けた能登町の姉妹都市・
宮崎県小林市の小学生が20日まで、北國新聞「地鳴り」
欄に被災地へのメッセージを寄せた。「元気を出してごた
さい」「これから応援しています」。子どもたちの一人
一人の素直な気持ちがいまを交えてつづられている。
吉井秀一校長は「メッセージを読んだ方に遠方からも応援
していることが伝わればいい」と話した。

ジは
子見
ッサー
「北國新聞で
北國新聞」三QRコード=
北國新聞
児童の手書きメッセー
ジQRコードが
北國新聞



北國新聞「地鳴り」欄に寄せられた宮崎県小林市小児童の投稿
小林市と併した旧野尻町が1992年、旧能登町と姉妹都市提携を締結して以降、同市と能登町は中学校生の相互訪問などを進めている。
【24面の地鳴り欄に児童の投稿を掲載しています。今後、随時掲載します】

「みんなで考え みんなでつくる みんなの小林小学校！」